



左：尾形乾山の角皿 / 右：尾形光琳「春秋草花図屏風」より構成

2026年4月8日(水) 第35回開講式を開催!!

2026年度前期 講座・WSが始まりました

4月8日、かわさき市民アカデミーの開講式が開催されました。学長、理事長、名誉理事長、川崎市長が挨拶され、新年度の学びのスタートを切りました。



馬場康雄学長は、近年しばしば語られる「多摩川格差」に触れ、公共機関、文化・教育など東京と比べれば差があることに言及されました。しかしながら、市民教育という点で、かわさき市民アカデミーのように、高度な内容を一般市民にわかりやすく発信しているところは東京にはなく、日本でもトップクラスであることを強調されました。さらに南武線沿線に広がる研究開発拠点の集積に言及し、都市が大きく変わりつつある中で、「アカデミーもまた新しい関わり方を考える時期に来ている」と結ばれました。

太田猛彦理事長は、アカデミーは質の高いカリキュラムを有する「日本一の市民大学」であると自負されており、川崎市や生涯学習財団の支援のもと運営されていること、そして運営面では受講生主体の仕組みが特徴であり、学びながら運営にも関わる点に独自性があること、さらに知識の習得だけでなく、健康寿命の延伸や仲間づくりといった効果にも言及し、社会の変化を多角的に分析できる講座内容が強みであるとされました。

藤嶋昭名誉理事長は、「皆さんの熱意にはいつも感心しています」と穏やかに語りかけたうえで、中国古典の一節を紹介。「玉磨かざれば器と



成らず、人学ばざれば道を知らず」。さらに「終身の計は人を樹うるに如くはなし」と続け、「人は一生学び続けるものだ」と話されました。そして、「知ることよりも、実行することが難しい」と、学びの意味、生涯学習の意義を説かれました。

最後に登壇した福田紀彦市長は、市民主体で継続されてきたアカデミーの取り組みに敬意を表され、多様性や、異なる価値観を持つ人々が共に学ぶことが重要であり、社会の強さにつながることを強調されました。川崎は大転換の中にあること、企業の研究拠点の集積が進み、日本有数の研究者集積都市へと変貌しつつあり、そのことが教育や子どもの学力にも好影響を与えていることを指摘されました。さらに、看護大学の拡充や新たな高等教育機関の整備構想にも触れ、生涯にわたり学び続けられる環境づくりと人材育成が、持続可能な都市の基盤であると結ばれました。

(広報・地域連携部会 参与 芦澤康夫)

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

“総会” 開催のお知らせ

開催日時：5月26日(火) 14:00～

場所：川崎市生涯学習プラザ 301 会議室

NPO の活動の充実と発展には、多くの皆さまのご協力とご理解が必要です。是非、NPO 正会員にご加入いただき、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

【問合せと NPO 正会員申込み先】

☎044-733-5590

第35回 開講式記念講演 「中央アジアと日本—古代から現代へ」

小松 久男 先生（東京大学名誉教授、かわさき市民アカデミー カリキュラム企画・編成委員）

中東情勢は混迷を極めていますが。全世界に及ぶエネルギー危機は深刻かつ長期間に及ぶものと予測され、政府はエネルギー資源の新たな確保に取り組んでいます。その中で昨年12月に東京で開催された中央アジア諸国5か国（カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、キルギス、タジキスタン）首脳会談が注目されています。日本では「シルクロードへの憧憬」の他はあまり知られていませんが、5か国を中心とした歴史を古代から現代まで日本との関係も含む興味深い講演でした。特にオアシスの民で商人あり、外交官あり、武人ありのイラン系民族のソグド人の話が印象的です。唐の僧鑑真の日本渡来に随行した安如宝、コーランに次ぐ価値と言われるムハンマドの言行録「真正集」を作成したブハーリーはソグド人です。限られた紙面では一部しか紹介しきれませんでした。いずれ世界史講座で是非取り上げていただきたいと願うのは私だけでしょうか。（世話人 森田幸士）



運営代表世話人会議が開催されました（2月6日）

第1部ではNPOから今期の経営概況について、「収入面では、受講生数は依然減少傾向だが、前期から実施の受講料値上げが減収を緩和し、支出面では、事務局体制の見直しやフェスタ等のイベントの中止によるコスト圧縮がなされ、若干の黒字収支が見込まれる」との報告がありました。

第2部では、①現在の組織運営についての課題とその対応、②受講生の求める「魅力ある講座」とは何か、の2点について意見交換を行いました。

アカデミーはNPO立ち上げ以降、日常的業務はNPOが雇用する職員（事務局）が担うものの、そのほかの経営実務（理事/参与）や個々の講座運営（世話人等）に関しては受講生自身がボランティアとして担うという体制で運営されてきました。しかし、NPO立ち上げ直後の「熱気」が失われるにつれて、アカデミーを専ら「受講の場」として捉える、という受講生が増えてきたと思われます。「参加の場」としても捉える受講生が増えるには何をすべきか…を話し合いました。この記事をお読みの皆さんも「アカデミー運営への参加」について一度お考えいただければと思います。（事業推進部会理事 重藤和義）



●2025年度受講生アンケート結果

781名の回答（回収率50.6%）がありました。回答者の内70歳以上の方が占める割合は、この3年間で69%、70%、73%と増加、お一人でいくつ受講されているかは、約半数の方が1つのみ、3割が2つ受講、3つ以上受講は2割の方でした。アカデミーを知ったのは、知人からの紹介・新聞折込ちらし・募集案内がほぼ同数で各20~25%。お友達紹介は重要です。受講の目的（複数選択）は「新たな知識/教養の獲得」が8割を超え、「退職後の充実」と「外出の機会作り」が各3割程度を占めました。8割の方が「12回で1講座」という標準型を「適当」と、5割の方はワークショップを受講したことがない、と回答されました。先生の順序立てて整理されたお話を聴く形の知の吸収も貴重ですが、先生の水先案内のもと、興味を同じくする仲間とワイガヤと議論しながら学ぶ方式も、仲間作りという観点からも多いものです。「運営世話人制度」は9割の方がご存知で、条件が合えばという方を含めて協力の意思をお持ちの方は4割おられます。「世話人の役割が分からない」という自由記述回答がありましたが、一応の基準は有るものの、世話人の人数によって実際の運用はそれぞれの講座で異なります。講座の世話人などに「お手伝いしたい」と仰ってご相談いただきたいと思います。「時間が取られる」とか「大変そう」というご意見もありました。だからこそ多くの方が「お手伝い」に参加して、みんなで支える講座作りをしたいのです。（事業推進部会理事 重藤和義）



受講生インタビュー

《外国人と日本人のご夫妻に聞きました!》



新百合21会場で、25年度後期のエクセレントⅢ講座「人(ヒト)の移動から現代世界の形成を読み解く」を受講されている外国人の方がいらっちゃって、日本語の講座なのにと驚きました。インタビューをお願いしたところ、奥様と一緒に快く応じてくださいました。

ゲイリー・ライマーさん：米国ミシガン州デトロイトの出身。大学では日本文学を専攻し源氏物語を研究。卒業後すぐ来日、ECCで英語の教師を10年あまり。

徳田律子さん：イギリス留学のあとECCに就職、そこでふたりは出会い結婚。二人はその後アメリカに戻り、ゲイリーさんは大学院で博士号を取得してPC業界に就職。その後、町田にある日本支店に転勤。そして昨年、72才で定年退職されました。

〈Q〉受講のきっかけは？

〈A〉**ゲイリーさん**「退職してから自由な時間をどう活用しようかと思っていた時、妻からアカデミーの存在を知らされた」
律子さん「十数年前からアカデミーを受講。当初は文学を小杉で受講していたが通うには遠いので、今は町田から近い新百合21で美術を受けている」

〈Q〉エクセレントⅢ講座を選んだ理由は？

〈A〉**ゲイリーさん**「テーマに関心があった」

〈Q〉受講してみて、どうですか？

〈A〉**ゲイリーさん**「とても満足している」

〈Q〉26年前期講座は受講されますか？

〈A〉**ゲイリーさん**「前期は他の用事で受けられないが、後期は受けたい」

律子さん「美術は引き続き受けたい」

お二人とも、楽しそうに、インタビューを受けてくださいました。ありがとうございました。

(編集委員 辻智子)

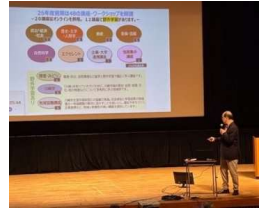


アカデミーのロゴ使用ガイドラインを制定し、こちらの色で統一することとなりました。あわせて、アカデミーの英語呼称が“Citizens'Academy of Kawasaki”と定められました。

Report

大盛況となったシニアライフ講演会 ～ プレゼン&パネル展示を実施

2月13日に、かわさき創造プロジェクト主催「シニアライフ講演会」が多摩市民館で行われ、アカデミーも参加しました。第1部の地域で活動する7団体が活動内容を紹介するコーナーでは、アカデミーの概要や26年度前期講座の内容を紹介しました。第1部開始前と第2部の講演会前に行われたパネル展示では、アカデミーのブースに多くの方が訪れてくださり、用意した65部のパンフレットが全て捌ける盛況ぶりとなりました。



(広報担当理事 島田久弥)

(公財)東京応化科学技術振興財団助成事業
2025年度SDGs講演会報告(3/14)

「緑地と文化～夢を旅する」

～ニューヨーク、ボストン、中国、
ブータンそして川崎へ～

東京大学名誉教授
・国際文化的景観科学者
委員会日本代表
石川幹子先生



第1部講演：主婦から学者へ

講師の石川幹子先生は夫に先立たれた後、ハーバード大学デザイン大学院に留学(専攻：景観設計)。公園設計や守った緑地は世界各地にあります。

東日本大震災の復興に携わっていた時、ブータン国王夫妻が見舞に来日。そのお礼に訪問した際、開発によるブータンの首都の惨状を目撃し、王宮を取り巻く棚田や森林の保全のためのロイヤルパークを国王に進言し、実現しました。

先生はまた「川崎市環境審議会委員」として、緑を守る取組みに関わられました。

第2部：グループワークは大盛り上がり!!

未来の子もたちのために『かわさきの宝物』の発掘がテーマ。グループワークは初体験の人が多かったのですが、生き活きとそして真剣に川崎の現状と未来について学び合う場となりました。

後日、参加者の一人からグループメンバーで緑地の見学に行ったとの報告を受けました。

(グループワークの種は蒔かれたのですね。)

担当理事 守田啓子

佐藤先生、ありがとうございました。
新山先生、よろしくお願ひします。

「いのちの科学」を長年担当された佐藤年緒先生(日本科学技術ジャーナリスト会議理事)は、3月末をもってカリキュラム・企画編成委員を退任されました。そして、「映像・メディア」ご担当の新山賢治先生(企画舎 GRIT 株式会社代表取締役プロデューサー)が新たに就任されました。

◆◆26 前期向け受講説明会を開催◆◆

1月28日に生涯学習プラザ、29日に高津市民館、30日に麻生市民館で、受講説明会を開催し、前年同期比10名増となる68名の参加を得ました。中でも生涯学習プラザでの回では会場から拍手が湧くほど活気に溢れた説明会となりました。今回、新たな試みとして、説明会終了後に当日の参加スタッフに個別の相談ができるコーナーを設け、会場では活発なやり取りが行われました。その甲斐あってか、説明会の場での申込みは21件ののぼり、前年同期の11件からほぼ倍の結果となりました。(広報担当理事 島田久弥)



特別講座

「令和の政治構造」

～2026年衆院選を振り返って～

選挙分析の第一人者である東京大学教授・谷口将紀先生(政治学者)を講師にお招きして、じっくりと今回の選挙結果から読み取れる現在の日本政治構造をお聴きします。

- ・日時：2026年5月9日(土) 14:00～15:30
 - ・会場：川崎市生涯学習プラザ4階 401 会議室
 - ・定員：140名(会場受講のみ)
 - ・受講料・資料代：2千円(現金、当日会場にて)
- *申込み方法などは、チラシをご覧ください

高市首相の強力なリーダーシップで衆議院の解散・総選挙が行われた。わずか1年4カ月前の石破首相の下での解散・総選挙では公明党と合わせて過半数を確保できなかった。しかし今回は自民党だけで316議席と圧勝した。この間に何があったのか。有権者は何を理由としてこのようなランドスライドを引き起こしたのか。



谷口将紀 先生

◆◆◆ 2026年度前期単回受講講座のご案内 ◆◆◆

今期も単回受講を実施します。4月から開講した講座の内、定員に余裕があり追加の受講生受入れに支障のない講座について、どなたでもその一部の回を単回で受講できる(受講料は2,000円)という制度です。今期は28講座104日程がその対象となります。23年度後期から始めた制度ですが、



12回全ての受講は都合がつかないけれど一部だけでもと思い受講した、同じ時間帯に受けたい講座が重なったので行ける日を選んで受講したなど、多くの方(25年度前期は延374名)が、每期様々なお考えで受講されています。

なお受講には事前の(希望受講回の1週間前)お申込みが必要です。詳細はパンフレットをご覧ください。

アカデミーの仲間を増やすためにも、アカデミーをご存知でないご友人に単回受講のパンフレットをお渡しし、まずは単回での受講を「お試し受講」としてお勧めいただくことをお願いいたします。(事業推進部会理事 重藤和義)

編集後記

昨年6月の役員就任から早1年が経とうとしています。その間、多くの受講生がこれまで培ってきた経験や能力を惜しみなく持ち寄りながら、役員や世話人などの立場でアカデミーの運営に心を砕くその姿に、大いに感銘を受けています。これがアカデミーのリーズナブルな受講料水準を可能にしているとの解釈もありますが、それにも増して、こうした方々の存在がアカデミー内の血流となって、アカデミーを人肌の温かみを感じる素敵な学びの場にしてくれているのだと強く感じます。アカデミーにおける“不易流行”に思いを馳せる昨今です。(C.S.)

認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー

発行人 広報・地域連携部会

編集人 かわら版編集委員会

川崎市中原区今井南町 28-41

川崎市生涯学習プラザ 3F HPはこちら↓

電話 044-733-5590

FAX 044-722-5761

問合せメールアドレス

info@kawasaki-c-academy.jp

https://kawasaki-c-academy.jp

